

国内産業の変遷を支えてきた タッピンねじメーカー

- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- オンリー技術
- メイドインジャパン
- 試作可小ロット
- 量産対応



主力のタッピンねじをはじめ、さまざまなバリエーションのねじを製造している

業務内容 白物家電から自動車、 縁の下の力持ちとして

粉室各伸社長は「ねじは縁の下の力持ち。産業の塩だ」と語る。線材を仕入れて頭部を形成し、ねじを切った後、熱処理やめっきなど表面加工を施す。強度が必要な金属の接合部位で、自らがねじ立てしながら締結していく「タッピンねじ」一筋で続けてきた。

大阪府の企業団地に移った1970年代後半は白物家電全盛期。建築や家電の需要が旺盛な時代だった。家電の国内生産縮小を経て、10年ほど前からの得意先は自動車関連。現在は50〜60%がシートや電装部品など自動車関連で占める。家電は20%、住宅設備が10%といった受注状況だ。

強み 取引先に鍛えられた 品質管理と挑戦の気風

自動車向けの仕事を通じて、品質管理が徹底して鍛えられた。一部で画像検査も導入して全数検査に対応。生産ラインは5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)にしっかりと取り組んでおり、社外の厳しい目にさらされることで「人づくり」にも効果が現れている。

オンリーワン商品でもある高張力鋼板(ハイテン) 適応の剛性をもったねじ「ハイテンビス」JFE条鋼(株)など共同で開発し、軽量化のためハイテン使用を広げる自動車で堅調な受注。売り上げの15%を占めるまでに成長した。品質保証、商品力を支える根幹にあるのは、会社の気風。世の中になく商品にチャレンジしようとする風土が、最大の強みであるとも言える。

デザイン “笑顔を作るねじ”で ものつくりをレベルアップ

ねじ頭部にスマイルマークをデザインしたねじ「スマイルねじ」。粉室社長は「突然、関東のデザイナーから電話があつて驚いた」と

振り返る。ねじ頭部に微細な穴加工でマークを施し、専用の工具で回すことができるという企画商品。何千本というオーダーではなく、手間もかかる困難なねじだ。

ただ、ねじを機能部品としてしか見ることがなかった粉室社長に「感性に訴えるねじ」という発想は斬新だった。「世の中に貢献できる。無理でもいいからやってみろ。機械で作れる限界までチャレンジしてみよう、頭の体操だ」と現場に指示。こうして実現した「スマイルねじ」。販売量はごくわずかだが、「粉室製作所」としては、レベルアップにつながるプロジェクトとなった。

今後の展望 転造・圧造のノウハウで 事業領域拡大にも挑戦

同社のコア技術は転造と圧造の各工程にある。入念な設備メンテナンスで、経年設備も順調に稼働させており、低コスト、高品質に製造できる体制は、これからも武器となる。

ねじ一筋でやってきたが、現有技術を他分野、他製品に生かせないかと模索しているところ。線材の径は1.6mm〜8mm、長さは150mmと比較的長尺の製品加工にも対応可能だ。線材も鉄やステンレスのほか、一部でアルミニウムも手がける。主力の自動車部品では部品の複合化、モジュール化も進行しており、事業領域拡大のチャンスでもある。



入念に手入れされた製造設備



自動車向けに鍛えられた品質管理

当社の歴史



昭和29年の創業。先代は転造技術を得意とする職人でした。賃加工から、ねじ完成品のメーカーへと転換。国内産業の衰退に伴い廃業する同業も多い中、生き残ってきました。「今の自分を超えていく」ことを大事に、これからも挑戦する企業でありたいと思います。

こむろ まさきのぶ
代表取締役 粉室 各伸さん

<http://www.komuro-ss.jp/>

主な事業内容

タッピンねじ製造販売

主な取引先(納入先)

自動車部品メーカー、建築資材メーカー、電子部品メーカー、家電メーカー

- 住所 〒583-0841 羽曳野市 駒ヶ谷5-30
- TEL 072-959-3300
- FAX 072-959-3301
- 創業 昭和29年4月
- 設立 昭和45年8月
- 資本金 2,200万円
- 従業員 40名

ISO 9001
ISO 14001

大阪28
大阪28